

Scientific issues related to Codex Alimentarius goals: A review of principles, with examples;
Workshop Report

Arpad Somogyi, John Hathcock, Hans Konrad Biesalski, Jeffrey B. Blumberg, Jean-Michel Antoine, Gareth Edwards, Peter Prock

Regulatory Toxicology and Pharmacology 60 (2011) 161–164

Codex（国際食品規格）関連の科学的問題：実例による科学的原理の再考

要旨： Codexでは食品に関する基準やガイドラインが定められており、それらが貿易に関する紛争を解決する手段として使用されることにWTOは承認を与えている。Codexではある事項を決定する際には主として科学的原理と証拠に基づいて行われるが、他の経済社会的事象に関連する法的要素についても検討する必要があるとしている。Codexには2つの主要目的がある。すなわち、消費者の健康を守ることと食品の企業活動における公平性を確保することである。Codexには各国用のテンプレートを記載する文書が用意されているが、これらは各国内での政策に対して拘束力を有していない。Codexに関しては、過去20年にわたり大きな進歩が遂げられたにもかかわらず、誤解や論争などが障害となり、Codexが実現すべき重要な面が取り残されている状態である。これは特に食品、栄養成分摂取、食品安全の確立などの分野に見られる。健康増進に関するクレームは、大規模集団から得られた観察データおよび無作為抽出治験などの科学的根拠を総合的に考慮して作成されるべきである。健康への安全評価は、事例的情報を抑えた良質な実験データに基づくリスク・アセスメントによって実施すべきである。規制に関する政策は、「安全使用の履歴」の意義がより適切に定義され、説明されれば改善すると考えられる。

キーワード： Codex, 国際食品規格、栄養成分、サプリメント、ヘルスクレーム、増進、リスク・アセスメント、安全